

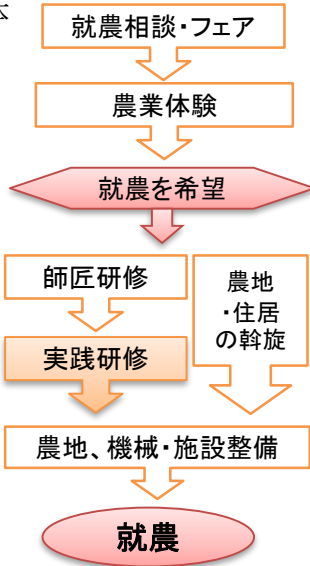
安来の就農・定住パッケージの充実

1. 安来の新規就農者支援のパッケージ

安来では県内でも先駆的な就農希望者の受入体制として、

- (1)指導農業士の下での「師匠研修」
- (2)担い手支援センターでの「実践研修」
- (3)研修中に「農地」「機械・施設」「住居」の選定を支援
- (4)就農・定住までをパッケージ化して支援するしくみを構築。

就農希望者に寄り添い農業経営が開始できるよう、関係機関と連携しながら就農・定住パッケージを充実。



3. 取組の成果

(1) 数多くの新規就農者を輩出

安来市の農業を支える担い手として、H24年からの11年間に25名の研修生が実践研修を修了し、新規就農(就農率100%)。

品目別 就農者数	イチゴ	葉物 野菜	花き	白ネギ
人数	15名※	5名	3名	2名

※果樹との複合経営(2名)含む

(2) 県内唯一のJAが運営主体となった研修機関

担い手支援センターは県認定の研修機関のため、研修可能品目での研修は、国就農準備資金、県農業人材投資事業(準備型)の受給が可能。

職員さんとの距離が近く、いつでも相談できることから、安心して栽培に取り組みます。就農後はイチゴを安定して出荷ができるよう頑張ります。



R5年就農を目指す研修生

2. 担い手支援センターの概要

- 【設立】H24年4月
- 【運営主体】JAしまね(やすぎ地区本部)
- 【ほ場面積】515.9a
- 【研修可能品目】イチゴ(土耕・高設)、葉物野菜(ホウレンソウ・コマツナ・ミズナ)、露地野菜(白ネギ・ニンジン)
- 【研修定員】4名(師匠研修(安来市新規農業研修)修了者)

担い手支援センターは、JAが島根県より農地・施設を借り受け、農業研修施設としてスタート。

その特徴は、研修生自らがセンターの施設・ほ場を借受け、**自営に必要な栽培知識、経営技術を実践し、知識や技術の修得、定着が可能。**

現在、より多くの研修ニーズに対応すべく、**新たな品目(アスパラガス・ブドウ)での研修計画を策定中。**

4. 課題と今後の取組方向

- (1)農地情報、空き家のリストアップほか集落での受入体制の整備。
- (2)農業用施設、農機具の導入支援の充実。
- (3)適正規模、品目の組み合わせによる経営モデルの構築。
- (4)新たな研修品目の師匠になる指導農業士等の確保。
- (5)県内外の就農フェアへの参加による新たな研修生の掘り起こし。